▲大栃中生徒と高知大学の留学生

６月１３日、子どもたちに国際的な視野を持ってもらおうと大栃小３・４年生（人権学習）、と大栃中全校生徒（社会科学習）を対象に、国際交流学習（主催＝大栃小・中）が行われました。

この学習は、高知大学の留学生で台湾（中華民国）の陳莉婷（チン・リテイ）さん、大韓民国の金剛一（キム・ガンイル）さんに台湾と韓国の小中学校の学習内容や学校生活、日本文化との相違などについて学習しました。

「韓国には特別な高校を除いて入試がありません」「台湾の小中学校には昼寝の時間があります」と古里の文化や制度を紹介しました。

大栃中の生徒は台湾、韓国の地図を見ながら熱心にメモをとっていました。

姉妹都市交流だより

▲札幌市内で踊る香美市の踊り子

第２１回YOSAKOIソーラン祭りが６月６日から５日間、札幌市で開催され、大勢の観客でにぎわいました。

今年は、踊り子隊と訪問団総勢２６人が参加し、姉妹都市積丹町と１８年連続で**ヤーレンソーラン積丹町＆香美市**※を結成し、参加しました。

一行は、８日に積丹町に着き、初の合同練習を行いました。９・１０日の両日は、大通公園をはじめとする札幌市内の会場で繰り広げられた本祭に参加し、合同チームは６会場で、高知県の**よさこい鳴子踊り**と積丹町発祥の民謡**ソーラン節**を融合させた楽曲にのって、笑顔と掛け声で元気よく踊り、大きな拍手と声援をいただきました。

※香美市１７人・積丹町４０人の総勢５７人の踊り子隊が参加。

香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会（西山武会長）が主体となって、毎年行われている積丹町への訪問・交流事業（６月２３～２５日）が行われ、１３人の訪問団が積丹町を訪れました。

香美市からの参加が今年で１６年目となる**味覚祭り**では、とれたてのウニ・エビ・ホタテなどが入った直径1.5mの大鍋で作る浜鍋など、積丹町ならではの味覚を存分に楽しめます。夜間は納涼祭や打ち上げ花火も行われ、札幌市内からも多くの観光客が訪れる盛大なお祭りです。

訪問団は、会場で香美市の地場産品である土佐打刃物や、ユズの関連商品を販売したほか、高知県の味覚を代表する鰹のたたきを販売し、客足が途絶えないほどの盛況ぶりでした。

▲味覚祭りでもおなじみとなった物部のユズドリンク

大宮小児童 田植えに挑戦！

６月１１日、大宮小学校の５年生が本田地区集落協定の管理する体験学習田で、田植えに挑戦しました。

この行事は、米の栽培を通して農業の役割や食生活の重要さを知ってもらおうと、毎年行われています。

子どもたちは「泥の感触が気持ちよかった」「夢中になって植えた。収穫が楽しみ！」「皆でやったき、早く終わった！」と、楽しみながら田植えをしていました。

今後は、稲の成長を観察しながら夏に雑草を取り、１０月には収穫を行う予定です。

６月３日、親子でのいざなぎ流御幣（ごへい）切り体験が奥物部ふれあいプラザで開催されました。

宝くじ助成金による事業で、神様や龍などの形をかたどる御幣と呼ばれる祭具を、紙を切ってつくる体験が行われました。当日は特別ゲストとして鉄のゲージツ家こと篠原勝之さんをお招きし、高知県や香美市とのつながりについてお話しいただいた後、カッターを使って山の神の幣などを切りました。

▲ゲストの篠原さん

午後は旧大栃高校へ移動し、県立歴史民俗資料館が保管している民具の見学やわら細工を体験し、昔の暮らしに思いを巡らせました。

▲慎重に御幣切りを行う参加者

７月の**第６２回社会を明るくする運動強調月間**にあわせて、７月２日に土佐山田町の八王子宮境内で決起集会が開かれ、市内の各種団体や企業から約２２０人が参加しました。

この運動は、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生に理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

集会終了後には、県警音楽隊を先頭にパレードや、広報車の巡回などが行われ、運動への理解を呼びかけました。

▲決起集会の様子